

廣津柳浪 ひろつりゅう 小説家。文久元年六月八日肥前國生れ、昭和二年十月十五日歿（二六二―一九二八）。本名眞人、幼名金次郎。筆名大郎冠者、崖の人、廣津、廣津柳浪子、木水子、柳浪子、柳浪生、柳生、蒼々園主人等。東京大學醫學部豫備門中退。官吏等を経、明治二十一年硯友社同人。深刻小説、悲慘小説の分野を拓く。廣津和郎はその次男。著書『殘菊』（柳浪子名、明治二十一年十月）二十一年上旬書籍店「新著百種」）、『小説百家選・第五卷（金鳥帽子裸美人）』（柳浪名、小石合著、明治二十七年五月五日春陽堂）、『一人娘』（明治二十九年四月）二十二年春陽堂）、『籠の中のうら』（柳浪名、合著・紅葉山人編、明治二十九年九月十日春陽堂）、『異種』（同、明治三十年一月）二十二年春陽堂）、『創作苦心談』（合著・新聲社編、明治二十四年二月五日新聲社）、『暗子あやこの淵』（海上真潮合著、明治二十五年八月十五日金港堂書籍株式會社「金港堂小説叢書」）、『さといふ氣』（明治二十八年一月一日隆文館）、『柳本自聖共談』（明治二十八年六月二十四日今古堂書店）、『女子文壇應寶文集―附大家文集』（共選評・編輯局編輯校訂、明治二十九年一月七日女子文壇社）、『女波男波』（明治二十九年四月）二十九日堺屋行刺書店）、『河内産』（明治二十九年六月一日春陽堂）、『自暴自棄』全二冊（前編・明治二十九年八月）二十八日、後編十月十八日春陽堂）、『睡玉集』（合著・伊藤青々園伊藤、後藤後藤、宙外編、明治二十九年九月十九日春陽堂）、『形見の絆』（明治四十年十一月十七日春陽堂）、『姫様お辰』全二冊（前編・明治四十年十一月十七日、後編十一月十五日春陽堂）、『柳浪叢書』全二冊（前編・明治四十二年十一月二十一日、後編四十二年六月十六日博文館「各家小説文庫」）、

「今戸心中」(大正四年四月十九日新潮社「代表的名作選集」)、
「柳浪深作集」(大正四年八月)、「千八百實業之日本社」、
「變自傳」(廣津和郎編、大正七年八月)、「千五百新潮社」、
「今戸心中・變自傳・河内屋」(昭和十一年一月七日新潮社「新潮文庫」)、
「今戸心中他」(一篇)(昭和二十六年二月五日岩波書店「岩波文庫」)、
「河内屋・黒蜩蛭他」(一篇)(昭和二十七年九月)、「千五百岩波書店「岩波文庫」」等。
文獻、專修大学大学院文学研究科畑研究室著「女子參政盛中樓」の諸相」
(昭和二十二年二月二十一日刊)等。